

特許実務における生成AI活用の現在地：10事例の検証から見た可能性と課題

10事例の検証結果：実務での「期待」と「現実」

期待：有用性が確認された領域

下調べ・論点抽出・たたき台作成に高い有用性



Keyword
Keyword
PATENT

ゼロからの文書作成や教育支援、技術動向の網羅的な整理には効果を発揮します。

現実：直面する課題とリスク

誤記検出率は**40%**に留まり、通信は禁物



符号の誤りや固有名詞のミスは見落としやすく、専門家による厳格な検証が不可欠です。

公報番号のみの指定は「ハルシネーション」のリスク



AIは本学習の公報に対しても「もっともらしい虚偽」を生成するため、全文入力が原則です。



業務フェーズ別：得意・不得意の整理

有用な活用方法	精度・具体性の課題
 出願・中間処理 応答方針の検討、用語定義に基づく分析	 出願・中間処理 誤記検出、具体的な補正業の作成
 調査・分析 技術動向の網羅的整理、キーワード抽出	 調査・分析 共同出願の集計、類似文書の殺落対応
 その他 クレーム案作成の練習、教育支援	 その他 個別のクレーム案に対するレビュー

実務導入を成功させる「3つの鉄則」



プロンプトで「判断基準」と「出力形式」を明確化
審査基準の定義を事前に与えることで、出力の具体性と法的妥当性が向上します。



最終的な「検証責任」は弁理士が負う
生成された情報 の真偽を確認するファクトチェックは、弁理士の倫理的・法的義務です。



秘密保持とクライアント合意の徹底
利用プランの学習設定を確認し、情報の入力には事前にクライアントの合意を得るべきです。

Gemini Notebook